

**社長が学び、社員さんの力を借りる経営をしましょう。**

社長自らが誰よりも真剣に学び、全社員さんの力を引き出し、同一方向に活かして行くことが、いつの時代も会社を伸ばし、飛躍させる秘訣です。

「社長にとって、本来の業績向上への手の打ち方とは何か。一に哲学、二に増客、三に商品、四に値段、五に粗利益、六に態勢、七に銀行、八に新事業、九に販売、十に多角化・・・やらねばならない大事は、たくさんある」と、コンサルタントであり実業家でもある牟田学氏は、語っておられます。

その中でも、いの一番にあるのが『哲学』であることに、私は深く納得しました。数年前までの、社長の要望は、「理想や理屈は後でいいから、とにかく、今、どうすればいいのかを知りたい」と言う、現実的・即効的・個別具体的な答えを求めてもらえることが多かったと記憶しています。哲学や理念といった迂遠な、効果の現れるのに時間を要するものは敬遠されていたのです。

それが、今は、より根本的な、より本質的な答えを求めてもらえるようになってきたのです。そもそも、何のために、我々はこの仕事をしているのか。我々にとって、仕事の喜びとは何か。仕事を通じて、我々の心は豊かになったのか。我々の仕事の社会的使命とは何か。経営理念や、社長としての信念の深さが、日々の経営に大きな影響を及ぼすこと。社員さん、一人一人の潜在能力を顕在化し、生き活きと全力を出し切ってもらうことこそ、本当の経営であると認識が変わってきたようです。

考えてみれば、古来より日本人が持つ『よりよい日本を創る努力をする』ことを忘れ、マネジメントだ、コンプライアンスだ、アカウントビリティーだと、自由（自らに由る）を失ってしまい、自縄自縛の畏に陥っているだけなのです。

人生、意気に感ず！ことや、男心に、男が惚れる！ことや、義によって助太刀致す！というような、打算や損得を超えた日本の心が、日本人にはあります。

かつての、渋沢栄一や、松下幸之助や、稲盛和夫の著述を読むと、あちこちに人情味に溢れる話が出てきます。

新しいものを追い求める前に、原点ともいうべきものを、取り戻せばいいのです。

社長、何よりも身に付けるべきは、自分の信念・自分自身の哲学のようです。

そして、目の前の社員さん、一人一人の力を正しく引き出して参りましょう。

灯台、下暗し！ヒントは、社長の目の前に、足の踏み場もないほど、転がっています。



今月のポイント

仕事場が楽園です！！